



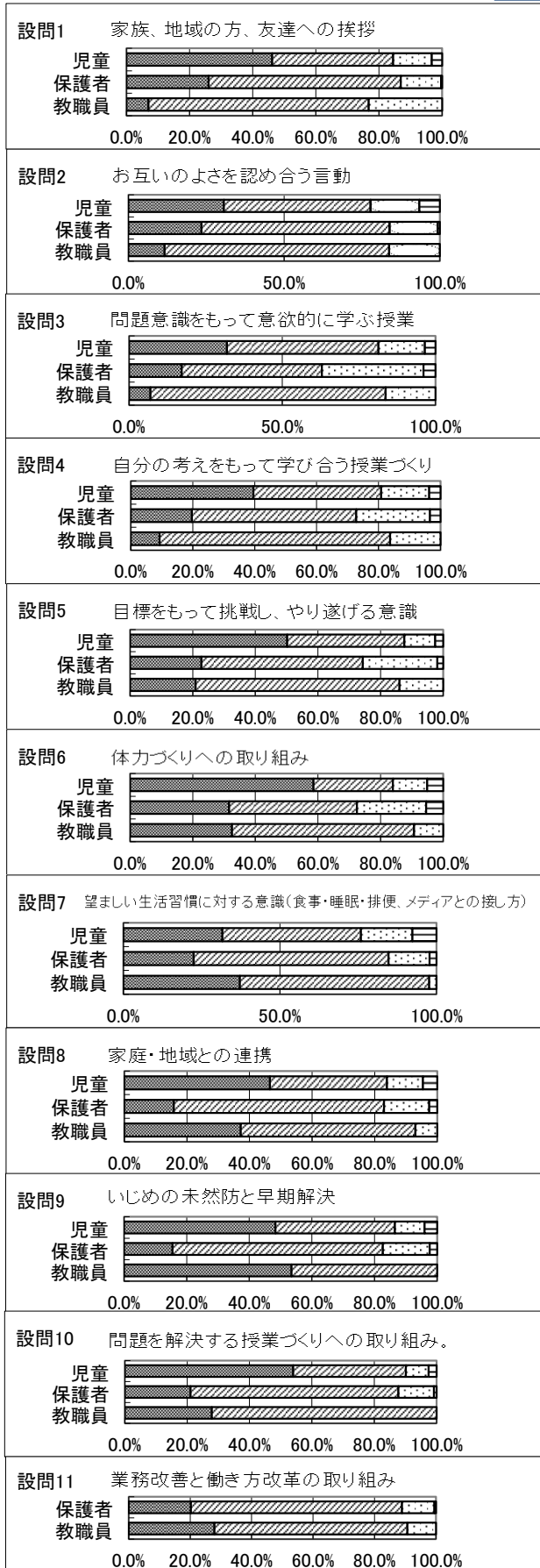


令和7年度 学校評価アンケート 児童・保護者・教職員の三者比較

<回答> 1 そう思う  2 どちらかと言えばそう思う 

3 どちらかと言えばそう思わない 

4 そうは思わない 



【設問1】児童の多くはあいさつができていていると感じている。保護者も概ねできていていると感じている。教職員も肯定的な回答が増えた。

○あいさつ運動に立つ児童や教師が多い。役員会や生活委員会を中心として、あいさつを盛り上げようと働きかける活動が活発であった。今の雰囲気を大切に続けていく。
★子どもと教師が一体となってさらに意識を高める取り組みを進める。

【設問4】児童の8割近くが疑問を解決しようという意識をもって学びを進めていると感じている。児童と保護者・教職員との意識に開きがある。

○単元との出会いや教材を工夫した授業づくりをすることで子どもの学ぶ意欲が高まった。体験的な活動を積極的に取り入れたことで、自分事として主体的に学ぶ姿が見られた。
★主体的に学ぶ力をつけるために、授業づくりや家庭学習のあり方についてこれからも考え、学びの充実につなげる。

【設問6】運動場が使用できない時期があったが、昨年度と同様に8割以上の子どものがすすんで運動できたと感じている。

○空き教室や渡り廊下に遊び道具を用意しのびのびと活動できる場所を確保したことで、子どもたちはすすんで体を動かすことができた。
★楽しく体を動かせるための環境整備を、安全に配慮しながら今後も進めていく。

【設問8】児童は地域の方から学ぶ活動を楽しんでいる。今後も効果的に取り入れながら地域とともに子どもたちを育てていく。

○地域教材やゲストティーチャーを取り入れたことで、子どもたちの学ぶ意欲を高めたり、地域とのかかわりを深めたりすることができた。
★地域教材活用のための環境整備を継続する。

【設問9】保護者と教職員の意識にやや開きが見られる。児童はもちろんのこと、保護者の心にも寄り添ったきめ細かな対応ができるよう取り組みを進めていく必要がある。

○よい所見つけや道徳を通して、互いに認め合える関係づくりを進めた。生活アンケートや面談週間を活用し、子どもと向き合い、寄り添った取り組みを進めた。
★速やかな対応と事後指導や連絡を丁寧に行うことで子どもや保護者がより安心できるように進めていきたい。